

環境と経済が調和しながら 成長を続ける北海道を目指します。

ゼロカーボン北海道に向けた 重点的な取り組み

道が策定した「北海道地球温暖化対策推進計画(第3次)」では、2050年までに温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指すという長期的な視点を持ちながら、2030年度の中期目標として、温室効果ガスを2013年度比で35%削減することとしています。

その実現に向けては、道民や事業者の皆さん、自治体などさまざまな主体と連携・協働して、プロセスや課題を共有し、温室効果ガスの削減・吸収の両面から積極的に取り組みを進めていきます。

多様な主体の協働による地域の脱炭素化 多様な主体と協働のもと、地域の取り組みに脱炭素の観点を導入し、多方面から温室効果ガスの削減を進めます。

また、環境・経済・社会の総合的な向上を目指し、脱炭素化だけでなく、経済の活性化や持続可能な地域づくりを同時に進めます。

豊富な再生可能エネルギーの 最大限の活用

北海道の豊かな自然や地域資源を利用した再生可能エネルギーの導入などにより、地域や産業の活性化につながる取り組みを進めます。

本道の再生可能エネルギー導入ポテンシャル※1

①太陽光発電	全国1位
②風力発電	全国1位
③地熱発電	全国3位
④中小水力発電	全国1位
⑤バイオマス産業都市数	全国1位

(37市町村、2021年7月時点)

※1さまざまな仮定の上で推計した利用可能なエネルギー資源量。すべて47都道府県での順位です。出典①～④/環境省「再生可能エネルギー情報提供システム(REPOS)」出典⑤/農林水産省「バイオマス産業都市選定地域数」

森林などの二酸化炭素吸収源の確保 全国の22%の森林面積を占める北海道の優位性を生かし、適切な森林整備・保全を進めるほか、建築物などでの道産木材の利用促進などにより、吸収源の確保と炭素の固定※2を進めます。

ゼロカーボンな暮らしに向けて

北海道は積雪寒冷・広域分散型の地域特性により、冬季の暖房用灯油や自動車のガソリンなど化石燃料の使用量が多く、一人当たりの排出量は全国の約1.3倍となっています。

●全国と北海道の温室効果ガス排出量の比較 (2016年度) ※数値は二酸化炭素排出量

	北海道	全国
温室効果ガス排出量	7,017万トン	13億800万トン
一人当たり排出量	13.1トン	10.3トン

出典/「北海道地球温暖化対策推進計画」に基づく平成30年度の施策の実施状況等について

脱炭素社会の実現に向けては、温室効果ガスの削減とともに快適で豊かな暮らしを意識しながら、暮らしの中の行動を選んでいくことが道民の皆さん一人一人に求められています。その取り組み事例を「3つのS」で紹介いたします。



環境忍者 えこ之助

3つのSで、脱炭素を目指すごさる!

Save エネルギーの消費を抑える

- 無理のない夏季・冬季の室温管理
- 食べ残しのほか、食品廃棄物の削減 など

Select 温室効果ガスの排出が少ないモノを選択する

- 省エネ性能の高い家電への買い替え
- 再エネ比率の高い電力への切り替え など

Shift ライフスタイルや価値観を転換する

- 再エネ設備の導入
- ゼロ・エネルギー住宅や次世代自動車の導入 など

●特集に関するお問い合わせ/道庁気候変動対策課 TEL.011-204-5334

ゼロカーボンの地域づくり、進めています!

道民の皆さんが健康で快適に過ごすことができ、真に豊かで誇りを持てる地域社会を目指します。

持続可能な地域づくりを目指して 動き出したまちづくりへり会社



株式会社ニセコマチ 事業推進室 室長 宮坂 樹樹 さん



ニセコ町は国の「SDGs未来都市」に選ばれ、町では温室効果ガスの排出量を2050年までに実質ゼロにする目標を掲げています。現在進められている第2次ニセコ町環境モデル都市アクションプランでは、2019年からの5年間で、温室効果ガスの削減に取り組むだけでなく、地域課題を解決し、より良い暮らしを形づくることを目指しています。



環境配慮型街区の完成イメージ

つくり会社「ニセコマチ」は、町や地元事業者などが出資して2020年7月に設立され、街区整備事業やエネルギー事業などを担っています。

街区整備事業では、温室効果ガス排出量を従来の半分抑えた環境配慮型住宅の建設を進めることによって、地域課題である住宅不足の解消を図り、経済の活性化を促します。また、エネルギー事業では、街区に設けるエネルギーセンターの運営管理や公共・民間に対する省エネ関連事業を展開していきます。

ゼロカーボンとデジタルとの融合 雪でエネルギーと産業を生み出す 次世代型データセンター

美唄自然エネルギー研究会は産学官の団体で、雪を資源として生かすための調査研究や開発・普及を行っています。10年以上をかけて取り組んできた「ホワイトデータセンター」構想は、大量の電力を必要とするデータセンターの冷房に雪の冷熱エネルギーを利用するしくみことです。データセンターの多くは首都圏にありますが、美唄市に誘致することにより、サーバーの冷却費用の大幅な削減が可能です。

2010年から実証実験を重ねてきた結果、商用化が可能になり、共同研究体の1社が2020年、美唄市で事業を開始。この4月に「株式会社ホワイトデータセンター」が創業しました。道路排雪による雪冷熱をデータセンターの冷房に使うほか、サーバーからの排熱をウナギやアワビなどの陸上養殖施設やトマトなどの植物工場の空調に活用しています。さらに、地産地消型の再生可能エネルギーの発電事業によって「温室効果ガス排出ゼロ」を目指しています。



美唄自然エネルギー研究会 会長 本間 弘達 さん



美唄市

畜産・バイオマスを活用した エネルギー地産地消のまちづくり



上士幌町 企画財政課 主査 老月 幸士 さん



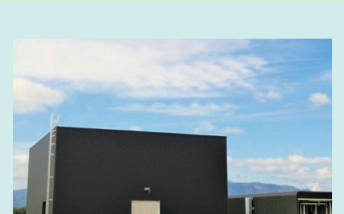
酪農・畜産の盛んな上士幌町は、人口約5,000人に対して4万頭以上の牛が飼養される地域。産業の拡大に伴う増頭・増産により、家畜ふん尿の適正処理は近年の地域課題となっていました。

そこで、町内農業関係機関で調査研究を進め、その後、酪農・畜産農家や農協などが出資するバイオガスプラント運営会社を設立し、2017年からバイオガスプラントの整備に着手しました。また、同年には道の支援を受け、



有限会社ドリームヒルのバイオガスプラント

町や農協など6団体が連携し、畜産バイオマスによるモデル地域の構築を進めてきました。この事業では、家畜ふん尿を発酵させてバイオガス発電を行うだけでなく、発酵後の消化液を固体と液体に分け、固体は牛の糞わりとして、液体はデントコーン畑などに液肥として再利用しています。また、連携先の有限会社ドリームヒルでは、余剰バイオガスを熱源にして、イチゴやブドウなどのビニールハウス施設園芸に取り組みジェネレーターやケキに利用し販売しています。



ホワイトデータセンター

雪を資源としてエネルギーや食料の自給に生かすことで、50年後の市民にも誇れる環境づくりを目指しています。

7月17日は「北海道みんなの日」(愛称:道みんなの日)

7月17日は「北海道みんなの日」です。北海道の歴史や文化、豊かな自然風土など、北海道の価値を見つめ直し、誇りに思ふ心を育み、より豊かな北海道を築き上げることを期する日として、2017年に制定しました。

道では、「北海道みんなの日」を記念し、この日を中心に道内各地域でさまざまな取り組みを行います。詳しくは道のウェブサイトをご覧ください。

「北海道みんなの日」ポスターとチラシのイラスト

【7月17日と松浦武四郎】

7月17日は、北海道の名付親とされる松浦武四郎が、1869(明治2)年、明治政府に対し「北加伊道」という名称を提案した日です。松浦武四郎は、江戸時代の終わりから明治にかけて活躍した探検家で、6度にわたる蝦夷地(北海道)の探検を通じて、アイヌの人々とも交流を深め、詳細な記録を数多く残しました。

北海道みんなの日 検索



ピックアップ! 地域情報

北海道の各地域から話題をお届けします。

道庁ウェブサイトに「北海道市町村広報紙(誌)ページへのリンク集」を開設しました。道内179市町村の広報紙(誌)をパソコンやスマートフォンから読むことができます。ぜひご利用ください。



空知総合振興局

花き産業を応援!

「花あるあるプロジェクト2021」

J Aいわみざわ、セコマグループ、岩見沢農業高校、空知総合振興局が連携し、空知管内の花を岩見沢市内などのセイコマート20店舗で、9月末まで毎週木曜(7月29日を除く)に販売中です。

●お問い合わせ/空知総合振興局農務課 TEL.0126-20-0083



花をラッピングする高校生

留萌振興局

地元食材を使った「るもいめし」SNSで発信

カズノコやホタテ、小麦のルルロッソなど、留萌管内の食材を使った料理を「るもいめし」と名付け、振興局の若手職員が調理した動画をSNS(会員制交流サイト)で発信中です。

●お問い合わせ/留萌振興局地域政策課 TEL.0164-42-8423



「るもいめし」のポスター

新型コロナウイルス感染症対策

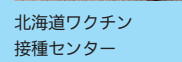
※6月29日時点での情報をもとに記載しています。最新情報は道のウェブサイトをご覧ください。



円滑なワクチン接種体制の整備に取り組んでいます

道は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を図るため、ワクチン接種を希望する道民の皆さんが、安心して円滑に接種を受けていただけるよう、石狩管内※を対象とする北海道ワクチン接種センターを設置するなど、市町村と一緒に接種体制の整備に取り組んでいます。

ワクチンの接種は市町村から接種順位により順次届けられる接種券を使用し、医療機



北海道ワクチン接種センター

北海道新型コロナウイルスワクチン接種相談センター

ワクチンの副反応などに関する相談を受け付けます。※接種の機関や日程などについては、市町村にご相談ください。

☎0120-306-154 受付時間:9:00~17:30(平日、土・日曜、祝日)

接種順位

- 医療従事者等
- 高齢者(65歳以上)
- 基礎疾患を有する方、高齢者施設等で従事されている方
- それ以外の方

関、市町村や道が設ける接種会場で行うことができます。

なお、ワクチンの接種は強制ではありません。接種を受ける方の同意がある場合に限り接種が行われます。

政府は希望する方に十分な量のワクチンを確保しており、道としても一日でも早く希望される方々に接種が行われるよう、取り組んでいます。



※札幌市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、当別町

新型コロナウイルス感染症に関する最新情報はこちら▶

感染者情報の公表方法が変わりました!

●個人情報保護に配慮しつつ、感染状況をわかりやすく伝える公表へ

道における新型コロナウイルスの感染者情報(札幌市、旭川市、函館市、小樽市にお住まいの方を除く)の公表方法などを、個人ごとの公表から振興局別の人数、全道の性別・年代別人数など項目ごとの公表に変更しました。また、「非公表なし」とすることで正確な感染情報を公表するとともに、市町村別の感染状況を毎週月曜日公表します。

●誹謗中傷などは絶対にやめましょう

新型コロナウイルス感染症は、誰でも、どこでも感染し得るものです。感染された方などを特定しようとする行為や、誹謗中傷、偏見、差別、いじめなどは、決して許されるものではありません。正しい知識や情報をもとに理解を深め、冷静で思いやりのある行動をお願いします。